

# Sakurabito

佐野日本大学学園創立50周年記念 発行!

さくらびと

佐野日本大学高等学校 同窓会 桜友会報

桜友会が発行する「さくらびと」は同窓生をつなぐ、コミュニケーション誌です。



## Turning point! 未来へ —動きはじめた時間—

Sakurabito Special Message

佐野日本大学学園 理事長・学園長

# 浦田 奨

Susumu Urata

Sakurabito Special Interview

創立50周年記念対談

佐野日本大学高等学校

校長 **山口 理**

Osamu Yamaguchi

佐野日本大学高等学校同窓会

会長 **和田 栄一**

Eiichi Wada

NEXT CHALLENGE

Sakurabito\_Yusuke Nishimiya

活躍する先生の話。

Teacher's Voice\_Toshiharu Ozeki

仕事×情熱

Sakurabito WORK STYLE\_Hitomi Sohara

夢をカタチに

Sakurabito Interview\_Kurumi Nakada & Misa Kimura

桜友会 Message & 活動報告 & School Info.  
SANICHI NOSTALGIC PHOTO CLUB  
Information & 編集後記

2014  
Vol.02

# 進化無限

創立50周年を迎える母校  
果てしない可能性を秘めている



東京オリンピック開催を間近に控え日本中が心躍らせていた昭和39年5月、地元佐野市の要請を受け、この石塚の地に佐野日本大学学園は誕生しました。  
ひとつひとつ歩みを重ね、発展してきた佐野日本大学学園は今年、創立50周年を迎えます。  
本校の礎と伝統を築いてくださった同窓生のみなさまに謹んで御礼申し上げます。

佐野日本大学学園理事長 学園長

浦田 奨 先生

Susumu Urata

現在、本校は北関東でも有数の進学校となり、日本大学はもろろん東大・京大をはじめとした難関国公立大学や有名私大へ毎年多数の合格者を出しています。平成18年からは文部科学省のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、未来の科学者を育成しています。また運動面においても硬式野球部・サッカー部・陸上競技部やゴルフ部をはじめ、各部活動が全国レベルの大会で活躍し、多くのプロ選手も輩出しています。生徒たちは校訓である「文武両道」を見事に体現しています。

しかしながら、最近の本校を取り巻く環境はたいへん厳しい状況となっています。年々加速していく少子高齢化は本校だけでなく、日本の社会全体に暗い影を落としています。この厳しい時代を乗り越えるには、高い目標とそれを実現させるための強い意志が必要です。本校にはその力があると確信しています。

今、まさに未来への「ターニングポイント」を迎えています。

佐野日本大学学園は創立50周年を機に、更なる進化を始めます。日本の未来のために強い意志と行動力をもった人材を育てます。多くの方々から信頼し愛され、同窓生が胸を張れる学校として、これからも無限に進化・発展していきます。「佐野日大」にご期待ください。



モザイク壁画は故水口好夫先生の作品『地球と流星群』。この壁画を制作するため、イタリアまで研修に出かけた水口先生の佐野日大への「想い」が感じられる。

# SAKURABITO NEXT CHALLENGE

平成21年度卒 [44期生] 西宮 悠介 さん

## 投手としての自覚が芽生えたあの瞬間。

平成25年のドラフト会議で東北楽天ゴールデンイーグルスから、5位指名された西宮悠介さん。彼がためめぬ努力の末に掴んだチャンスは、在校生や卒業生に喜びと期待を与えてくれた。入団が決まり、母校で行われた激励会の後、高校生活における自身の「ターニングポイント」について話を話してもらった。

一年生の秋に一軍で経験した数回の登板が彼にとって大きなチャンスだった。「間近で先輩のマウンド姿や投球術を観察し、目標として学びながら自分のプレーと重ねて努力し、徐々に目標としていた先輩を超えたいと強く思った。そして更なる課題を自分自身に課して努力を続けた結果、関東大会での登板チャンスを掴み取ることができた。努力と結果を自分の投球で結びつけたことで、野手の先輩方からも少しずつ信頼を得ることが出来た。あの時が自身「ターニングポイント」であり、投手としての覚悟と、チームの一員であることへの誇りが芽生えた時だと語る。そして野球以外の高校生活の中でも、人間的に成長できた一番のポイントだったと当時を振り返る。

甲子園出場という夢には届かなかったが、この3年間に悔いはないと話してくれた西宮さん。大学進学後も継続して努力を重ねた彼だからこそ、新しいステージでの挑戦意欲は果てしない。「まずは一軍のマウンドで投げるのが近い目標、そして少しでもチームの戦力になりたい。プロという世界で長く活躍できる投手になることが将来の目標です。」夢という大きなチャンスをつかむには、現実的な目標を一つ一つ作り、クリアしていくことが大切だと後輩達にエールを贈る。多くのファンに愛され、プロのマウンドで躍動する彼の姿を見る日が待ち遠しい。

Yusuke Nishimiya

1991年生まれ、横浜商科大学卒。平成25年のドラフト会議にて東北楽天ゴールデンイーグルスからの5位指名を受け入団契約を結ぶ。背番号は38。



# 活躍する先生の話。

Teacher's Voice\_Toshiharu Ozeki

剣道部を日本一にすることが、私の目標です。



## 教

え子である桜剣士たちを団体戦インターハイ初出場へと導いた大関利治先生。

今年、赴任してからの目標であった、団体戦全国大会出場という結果を出せたことが、自分自身にとっての重要なポイントだと言う。栃木県決勝で八連敗、この優勝までには自分自身の考え方や指導方法に対して多くの試行錯誤をしてきました。自身の競技と生徒指導を両立してきた自負はある。しかしながら、子供たちは最後の壁を越えることがなかなか出来なかった。子供たちの力を引き出す現在の指導スタイルを確立出来たことが、「ターニングポイント」だと語る。大関先生の競技経験と指導経験、そして教え子達の頑張りや積み重ね、今回の優勝を生み出した。

今年剣道七段を取得した大関先生には新しい目標がある。「次は、剣道部の全国大会優勝。我校を日本一の高校にするという大きな目標を達成する為に、まず剣道部を日本一にすることが私の目標であり使命であると思っています。」

剣道において大切なことは礼儀を重んじること、そして人間性を磨くことにあると言う。勝利を目指し、「一生懸命頑張ることと知る事ができる本当の剣道の精神。」「応援される部」「応援される選手の育成」を目指す大関先生は、桜剣士と共に人間性を磨き続けながら、次の「ターニングポイント」と対峙する。

剣道部顧問  
大関 利治 先生

1975年生まれ、筑波大学卒。剣道七段、全日本剣道選手権大会ベスト16。全国教職員剣道大会、個人戦優勝。



# Turning point! 未来へ

—動きはじめた時間—

創立50周年を迎えた佐野日本大学高等学校。  
これまで築き上げられてきた歴史は、  
今、まさに新しい扉を開き、歩みはじめようとしている。  
今回、桜友会報「サクラビト」は、  
インタビューに和田同窓会長を迎え、  
山口理校長先生にお話を伺った。

TEXT: Masato Hayashi PHOTO: Akiko Arai



佐野日本大学高等学校 同窓会 会長

和田 栄一 さん

Eiichi Wada



Sakurabito Special Interview

佐野日本大学高等学校 校長

山口 理 先生

Osamu Yamaguchi

多様化する教育現場を

見つめ、熱意を持って、

取り組むことが最も大切。



優しい笑顔で自身の赴任当時の思い出から、現在の本校についてを丁寧に話してくれた校長先生。

和田会長…本校は創立50周年を迎えました。山口校長先生が考えるこれからの本校について教えてください。  
山口校長…現在、教育の現場と教育の方法は多様化してきています。その中で私は特色のある学校、よりスケールの大きな文武両道の進学校へと変わる為に「これから何をすべきか」を考えていくべきだと思っています。それには、全職員が同じ目標へと進む熱意を持つことが大切です。そして、これまで50年間、歴代の校長先生と教職員たちが築き上げてきたことを礎として、これまでの制度を壊すのではなく、むしろ新しいものをゼロから創りあげていく気概をもって、新しい可能性に取り組むべきだと考えています。まずはじめに「SSH」にこれまでに以上の特色を出していくこと。そして、日本大学の付属高校として、日本大学の取り組みに対して、足並みを揃えることも大切だと考えています。地域の人々に必要だと思ってもらえる学校を目指し、たくさん生徒たちが活躍できる場を作り上げる。豊かな環境づくりに力も注いでいきたいですね。

和田会長…これまでの経験を活かしながら、全職員で「多様化する教育」に具体的に取り組む事が、これからの佐野日大高校を新しく築き上げていくのですね。

さて、山口校長先生も教師として本校でクラスを担当し、多くの卒業生を送り出してきました。高校生活の中で様々なターニングポイントを迎える生徒たちへ、どのような指導を心掛けていましたか？

山口校長…ターニングポイントという点ではやはり、高校卒業を迎える前、進路を決定する時が生徒たちにとって一番大切な時期であると考えます。そして、先生も生徒も、物の価値や考え方は時間が経つに連れて変わっていくことを、知っておかなければならないと思っています。変化の激しい今の時代は、とても価値のある物が、数年経つと存在しているかどうかも分からない。進路の決定は、将来の経済的、社会的な有利不利だけで決めないで欲しいと思っています。

和田会長…その考え方を持つようになった「きつかけ」はありましたか？  
山口校長…送り出した生徒から改めて教えてもらった大切な事があります。私が受け持っていたクラスの生徒たちには、まず大学への進学が可能な学力をつける事、そして自分の進路を良く考えて選択するべきであることを常々伝えてきました。ある生徒が大学への進学も可能な学力があるにもかかわらず、専門学校を選び、自分の目指す道へと進んでいきました。私はいい進路指導が出来たと思っていました。けれども数年後、その生徒に再会したとき、彼は自分で選んだ道に対して迷い

3万人の卒業生たちは本校の宝。  
今も歩み続けている、  
自分の母校を感じてください。



当日は1号棟の教室内でインタビュー。卒業生たちの思い出がたくさん詰まった1号棟は、平成26年に新しく生まれ変わる。上記写真は現1号棟の廊下にて撮影。

を持つていました。その姿を見て、当時の進路指導は正しかったのかと深く考えました。その時、時間が経つことで人間の考え方や、価値観が変化するということが「気づかされた」のです。その経験から、生徒たちに日頃から自分が自信を持つて取り組める事を探ささいと伝えています。

三年間という高校生活は人間にとつて、とても大切な時期でもありません。勉強することも大切であり、友達と楽しく遊ぶ時間も大切です。高校生という年代に経験しなくてはいけないことがたくさんあります。生徒たちの将来を一緒に見つめて常々指導していくことが、生徒たちの大切な「ターニングポイント」を迎える為に必要な事だと思えます。

和田会長…価値観が変化する年頃である高校生の将来に、自分が将来真剣に取り組めることを見つけさせることが大切になりますね。では現在、校長先生として生徒たちにどのように接していますか？

山口校長…生徒たちへは、今学んだことは決して無駄にならない、そして様々な経験を重ねていくことで必ず良い結果に結びつくということを伝えるようにしています。現在は教壇に立つていないので、常に接することはできません。校長室のドアを開けていると部活動で活躍した生徒や、進路の決まった生徒などが声をかけてくれます。私は声をかけてくれた生徒の親へ、その事を手紙に書いて伝えるようにしています。私は校長として生徒の素晴らしさを親へ伝えることも大切にしています。

和田会長…親が子どもたちの普段の

生活を知ることが出来る「手紙」、山口校長先生の心遣いはとても素晴らしいことですね。それでは最後に同窓生にメッセージをください。

山口校長…3万人を超える卒業生たちは本校の宝であると思っています。本校を卒業していない私にはこの同窓生の「人数」と「繋がり」がうらやましいと感じています。公立の高校では学校そのものが変わってしまった、異動によつて先生方も変わってしまった、時と変わらぬ先生がいてくれる。そしていつまでもその存在感は変わらない。在学当時の姿を残しつつもより良く変化している学校の姿、歩み続けている学校を訪れ、感じてほしいですね。

和田会長…ありがとうございます。創立50周年を迎えた佐野日大高校がもっと良くなるように「同窓会」も協力したいと思っています。山口校長先生の貴重なお話で本校のこれからの姿に、期待を持つことが出来ました。今回は貴重なお時間をありがとうございました。



仕事 × 情熱



昭和50年度卒 [10期生]  
蘇原 ひとみ さん  
HITOMI SOHARA

園内に咲き広がる「さくらびと」の笑顔。



1957年生まれ、貞静学園短期大学(旧専門学校)卒。  
現在、「社会福祉法人 桜和会 大栗保育園」の園長代理・保育主任として活躍している。

**園** 内に響くのは楽しいリズムと子供たちの声。ここは社会福祉法人 桜和会・大栗保育園。子供たちに囲まれながら、いつも楽しく働く蘇原ひとみさん。彼女の魅力の源はその場を明るくしてくれる「笑顔」にある。高校生活について聞くと、戻りたいぐらいに楽しかったと語る蘇原さん。4人兄弟の全員が佐野日大高校の卒業生だという。「兄が2期生、姉2人が5期と7期生で私が10期生。県立高校への進学が一般的な時代でしたが、兄弟が通っていることで違和感なく高校生活を送ることができました。制服も気に入っていましたし何より、どの先生も優しく接してくれました。そして学校は、挨拶や礼儀を厳しく教えてくれた場所でもありましたね。」最も印象的な思い出は「一年生の時に初めて体験した『体育祭』。規模の大きさに驚き、大勢の仮装行列に圧倒された」と当時を振り返ってくれた。

幼少の頃から思い描いていた保育士の夢は、高校3年間を過ごして確かなものへと変わっていった。現在に至るまで、保育士としてたくさんの子供たちと寄り添ってきた蘇原先生の働くスタイルの中心には「目配り、気配り、心配り」が存在する。「大栗保育園は立ち上げの時から主任保育士として携わり、佐野短期大学の協力により特色ある保育を実施しています。また、世代間交流では同じ桜和会の「大栗の里」に訪問したり、充実した保育をしています。園児たちの小さな変化を毎日しっかりと見とめること。そして、若い保育士たちが直面する様々なシーンに適切な言葉を選び、アドバイスすることが私の仕事ですね。」円滑な業務と大好きな子供たちの為、いつも変わらない「さくらびと」の笑顔が楽しい時間をいつまでも繋いでいく。

絵本を手に持ちリズムをとる彼女の姿。その優しい声に園児たちが集まり、絵本の時間が今日も始まる。子供たちの瞳にはキラキラとした笑顔が輝いている。



平成21年度卒 [44期生]  
中田 クルミ さん

日本大学卒。TVCやNIKEのプロダクツアンバサダーとしても活躍を続けるサクラビトは、DJとしても積極的に全国各地で活動してく予定。今年「HARAJUKU KAWAII!!」などのファッションイベントにも参加予定。



Kurumi Nakada



役者を目指しながら、様々なシーンで活躍する中田クルミさんに聞きました。

「在学中のターニングポイントは？」

ダンス部で頑張っていた時に、膝に怪我をしてしまったことが大きなターニングポイントでした。そして、運動が出来ない中で何となく入ったのがデジタル放映部。ダンス部とは異なる新しい世界観を感じることが出来ました。映画が好きだから集まった仲間たちと一緒に、映画制作に本気で取り組めたことが、今の活動の原点であり、「役者」という夢に向かって歩み続けていける大きな糧でもあると思います。

「今とこれからの目標を教えてください。」

敷かれたレールの上を走る事よりも、自分で新しい道を築いて歩みたいのです。今はモデルという枠を超えた活動をしたいと考えています。そしてこれからも、「役者になる」という高校に通う前からの夢をプしることなく、自分らしく突き進もうと思っています。

自分の夢に向かって頑張る「サクラビト」に聞きました。



平成20年度卒 [43期生]  
木村 ミサ さん

日本大学卒。大型ファッションイベントである「HARAJUKU KAWAII!!」に出演予定。ファッションブランド「BonBon」とのコラボアイテムを発売したりと、これからも幅広い活躍が期待されるサクラビト。

ファッション雑誌のモデルなどで活躍する木村ミサさんに聞きました。

「在学中の思い出を教えてください。」

二年生の時にアメリカへ留学したことが大切な思い出の一つです。当時、私は語学を学ぶ事と一緒に、自分の知らない環境で新しいことを吸収したかった。日本にいただけでは経験できない様々な出会いや、自分の成長を感じることのできた留学生活だったと思います。異なった環境に入っても、自分なりに成長できることを学べた貴重な体験は、「新しいことを吸収したい」という、私の気持ちも強くしてくれました。

「今とこれからの目標を教えてください。」

自分の興味を仕事に繋げることに意欲を持って取り組んでいきたいです。今のモデルとしての仕事や、イベントへの出演、コラボアイテムの制作をこれからも続けながら、今まで以上に「自分の好きな事」と仕事を繋げて私にしか出来ない事をしていきたいです。



Misu Kimura

# 桜友会 活動報告

## 同窓会からの Message

同窓会の会員数が今年で、  
3万人を突破しました。



平成26年は佐野日本大学学園創立50周年の年であり、このことは大変喜ばしいことであり、同窓会としても最大限の協力・支援をしていく所存でございます。

さて、会員数3万人を突破した本会ますます活動も活発になりつつあります。去る1月18

日にホテルサンルート佐野にて開催しました総会、第6回還暦を祝う会ならびに新春のついでには、同窓生だけではなく理事長・学園長先生、校長先生をはじめ現職の先生方や退職された先生方をお誘いして、約150名の皆さんと新年を祝い、「校の絆を深める」ことが出来ました。これもみなさまの同窓会活動に對してのご指導とご協力の賜物と存じます。来年は、もっともっ

と沢山の皆さまがお集まりいただけることを願ひして挨拶に代えさせていただきます。

同窓会 会長 和田栄一



### 同窓会チャリティゴルフコンペが開催されました。

平成25年5月1日に足利カントリークラブ、平成25年10月4日には佐野ゴルフクラブにて開催いたしました。年齢はさまざまですが両日とも和やかに行われました。来年も行われますので、同窓生の皆さんの参加をお待ちしています。

### 懐かしい母校に改めて登校。「母校を訪ねる会」

卒業して10年目・20年目・30年目となる卒業生を対象として、平成25年9月21日に開催されました。今回は17期生(昭和58年3月卒)・27期生(平成5年3月卒)・37期生(平成15年3月卒)の方々が対象となり、懐かしい学び舎で久しぶりに集まった仲間たちと先生方を囲んで楽しい時間を過ごしました。来年度以降の予定は次の通り。



平成26年 第18・28・38期 | 平成27年 第19・29・39期 | 平成28年 第20・30・40期

### 同窓会支部紹介

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 佐野支部 支部長 早川郁雄(7期)  | 5. 古河支部 支部長 赤坂幸広(11期)  |
| 2. 安蘇支部 支部長 吉原史典(7期)  | 6. 学園支部 支部長 湯澤輝雄(1期)   |
| 3. 館林支部 支部長 奈良与志則(4期) | 7. 宇都宮支部 支部長 平野一昭(10期) |
| 4. 埼玉支部 支部長 小林利之(6期)  | 8. 桐生支部 支部長 川嶋伸行(8期)   |

### 同窓会行事予定 [平成26年→平成27年]

平成26年	5月1日(木)	第32回 チャリティーゴルフコンペ
	9月20日(土)	第21回 母校を訪ねる会 (18期・28期・38期)詳細は左記
	10月5日(日)	第33回 チャリティーゴルフコンペ
平成27年	1月17日(土)	平成26年 同窓会総会 【会場】ホテルサンルート佐野
		第19回 新春のついで 第7回 還暦を祝う会

詳細は未定です。お問い合わせはSakurabitoメールまで sakurabito@sanonihon-u-h.ed.jp

## School Info.



男子第64回全国高等学校駅伝競争大会出場(陸上競技部)  
栃木県代表として2年ぶり、14回目の全国大会へ出場を果たした。結果は29位だったが選手全員で繋いだタスキには桜魂が宿っていた。全国制覇は後輩に託す。



全国大会へ出場決定(ゴルフ部)  
関東決勝大会にて4名の選手が上位スコアをマークし、3月26日から開幕される第34回全国高等学校ゴルフ選手権春季大会への出場権を獲得。



### 男子走り高跳びで高校2冠の活躍(陸上競技部)

陸上競技部の中島大輔選手が北部九州総体と第68回国民体育大会で2冠の偉業を達成。これからの活躍に注目と応援をお願いします。



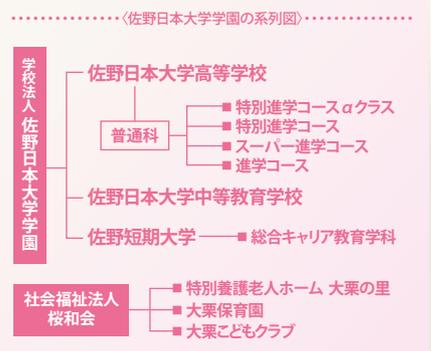
### 北部九州総体出場(剣道部・男子団体)

県南体育館で行われた予選会にて初優勝。剣道部男子団体が北部九州総体に初出場を果たしました。これからの活躍が大いに期待される。



### 選抜高等学校野球大会出場(硬式野球部)

第86回選抜高等学校野球大会に出場することになった硬式野球部。3月14日の抽選会后、3月21日から阪神甲子園球場にて開幕。応援よろしくをお願いします。



# 岐路

— その「瞬間」に —

僕を取り巻く環境は  
刻一刻と変化を続け  
その「瞬間」はもう二度と戻らない  
あの頃の仲間も今は別々の人生を歩み  
過去と語り合うようになった  
ふと想う  
僕は前に進めているのだろうか  
いつも自分が信じた道を歩んできた  
あの時 あの場所で  
何故その選択をしたのか  
岐路に立たされたとき  
ほんの少しだけ 後悔したこともある  
けれども  
その「瞬間」ことに最善の道だと思いう選択をしてきた  
それが正しかったのかは まだわからない  
これからも壁にぶつかるだろう  
後悔するかもしれない  
それでも  
最後のその「瞬間」に  
納得のいく人生だったと言えるように  
僕は自分の意思で歩いていく

## SANICHI NOSTALGIC PHOTO CLUB



TEXT:Aya Saito PHOTO:Akiko Arai

### Information

#### 佐野日大高等学校同窓会からのお願い

「Sakurabito」を読んでいただいている卒業生の皆様へ。佐野日本大学高等学校同窓会では同封の振り込み用紙にて「同窓会年会費：3,000円」の納入を受け付けています。この同窓会会報誌も皆様の会費によって発行させていただいております。卒業生の皆様にとって「再会」の場所となる同窓会に今後ともご協力をお願い致します。

- 卒業生の働く会社・店舗などの情報を募集しています！**自薦他薦を問わず随時募集中！**
  - 受付はコチラ → [sakurabito@sanonihon-u-h.ed.jp](mailto:sakurabito@sanonihon-u-h.ed.jp)
  - 同窓生の交流が深まる同窓会公式 **facebook**。「佐野日本大学高等学校同窓会」で検索、アクセス！
- ※皆様からいただいた卒業生の情報は、Sakurabito編集室にて検討のうえ掲載させていただきます。掲載されない情報もございますことを予めご了承ください。

#### 注意事項

本誌掲載の個人情報、同封の振り込み用紙へ記入していただいた個人情報は、本人の同意なく開示することはありません。また、私たち佐野日本大学高等学校及び同窓会ではその他の勧誘、ハガキの郵送は一切行っておりません。よって、出版社等を名乗る会社等から情報提供または代金振込のハガキが届いた場合は、破棄していただくようお願い致します。※誤って情報を提供してしまった場合、転売などの二次被害の恐れもあります。くれぐれもご注意ください。

本校卒業生に対する振り込み詐欺(オレオレ詐欺)被害にあわれよう十分にご注意ください。未遂を含め複数件発生しています。



#### 編集後記

「Sakurabito Vol.02」はいかがでしたでしょうか？今回は「ターニングポイント」をキーワードに掲げ、サクラビト達の過去から今への転機、そして未来へ繋がる想いを聞く事が出来ました。ここでは紹介出来なかった3万人以上の卒業生にも、同じようにターニングポイントがあったのではないのでしょうか。当時の思い出とともに「佐野日大の卒業生で良かった」とあらためて思い返すきっかけになっていただければ幸いです。

未来へ動きはじめた母校と共に、同窓会報Sakurabitoも更なる可能性を模索してまいりますのでご期待ください。

最後に、発行にご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

Sakurabitoとは — 「桜でつながる、人と人。」母校「桜」と共に世代を超えた同窓生「人と人」がつながり合う同窓会報として新しく生まれました。桜の花びらと一緒に表現されたつながり合うタイトルロゴは「再会」を表現し、私たちが過ごした母校の「現在・過去・未来」が詰まったコミュニケーション誌です。